

等々力緑地再編整備の取組について

1 再編整備の取組の主旨

等々力緑地は、緑と水のうるおいの空間を有し、良好な都市環境を形成するための重要な役割を担うとともに、運動施設や文化施設、市民の憩いの場など多面的な機能を有する貴重な地域資源として、多くの市民の方々に親しまれている総合公園です。

これまで、段階的に緑地内の整備を進めてきていますが、陸上競技場や硬式野球場などの施設について老朽化などの課題があるほか、災害時における必要な機能の整備・充実など、武蔵小杉駅周辺の大規模な再開発事業等も進む中、市民に愛される総合公園として再編整備を進めることで、より一層の都市機能の強化など、魅力を高めるまちづくりにつなげることが求められております。

2 再編整備の取組経過

- 平成20年10月に学識者やスポーツ関係者、地域の代表者等で構成する「等々力緑地再編整備検討委員会」を設置。
- 「等々力陸上競技場の全面改修及びその周囲の施設・環境の速やかな改善に関する請願」（平成20年11月27日提出）⇒採択
- 「市内唯一の硬式野球場である老朽化した等々力球場の全面改修に関する請願」（平成20年12月15日提出）⇒採択
- 平成21年 5月 「等々力緑地再編整備基本方針」（整備に向けた基本的な考え方）
- 平成22年 2月 「等々力緑地再編整備基本構想」（公園の基本的な考え方）[パブリックコメント実施]
- 10月 「等々力緑地再編整備基本計画」（再編整備の方向性）
- 平成23年 3月 「等々力緑地再編整備実施計画」（主要施設の整備の方向と配置、整備手順）
- 平成23年11月 「等々力陸上競技場整備計画」（競技場周辺整備、陸上競技場整備、スケジュール）
- 『「等々力緑地再編整備実施計画」と「等々力陸上競技場整備計画」に伴い廃止予告された、「等々力地区幹線生活道路を存続させること」に関する請願』（平成24年3月13日提出）⇒継続⇒不採択
- 「等々力緑地の木々の伐採に関する陳情」（平成24年5月2日提出）⇒採択
- 「等々力緑地再編計画書の等々力プール廃止撤回及び存続に関する陳情」（平成24年7月4日提出）⇒継続⇒取り下げ（平成25年4月19日）
- 平成25年 3月 「等々力硬式野球場整備計画」（施設の基本機能、スケジュール）

3 等々力プールの概要

整備年度：昭和43年度

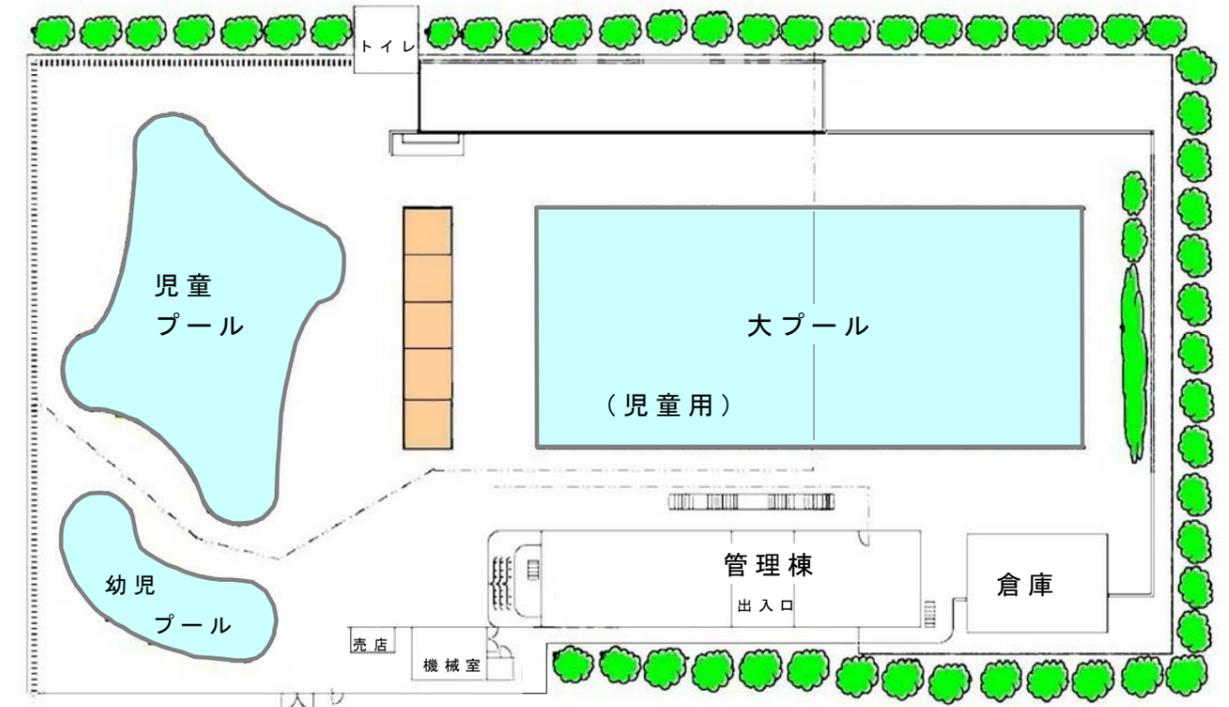
利用期間：7月10日～8月31日

利用時間：午前9時～午後5時

使用料：15歳以上 300円

3歳以上15歳未満（中学生を含む） 100円

入場者数：年間約5万人（平成20年～平成24年の5年間平均）



●敷地面積 6,000 m²

●水面積 1,624 m²

大プール	1,000 m ²	深さ 1.3 ~ 1.6m
児童プール	490 m ²	深さ 0.9 ~ 1.1m
幼児プール	134 m ²	深さ 0.25 ~ 0.3m

4 再編整備計画におけるプールの位置づけ

等々力緑地再編整備実施計画（平成23年3月）

3 主要施設の整備の方向と配置

(4) プール

プールは、大人用プール、児童用プール、幼児用プールの3種類があり、夏季期間（7月～8月）に利用されている屋外プールです。

昭和43年に供用開始し、施設の老朽化が指摘されています。

また、年間約5万人の入場者数で、市内で最も利用者数の多い屋外プールですが、大人用の50mプールの半分をかさ上げして開放するなど、現在は児童の利用が主となっています。

施設利用期間が2ヶ月と短く、6,000㎡がフェンスで囲まれており、敷地の効果的な利用などが指摘されていますので、次の方向で整備を進めます。

- ・児童の利用が主となっていることから、利用期間の長いじゃぶじゃぶ池など親水施設への変更等の検討を進めます。
- ・当面は、現在の機能を維持しながら、プールの機能のひとつである健康維持・健康づくりという視点からも、施設の必要性の検討を進める中で、今後、硬式野球場など大規模施設への複合化や公園区域の拡大に合わせた整備の可能性などについて検討していきます。

等々力陸上競技場整備計画（平成23年11月）

〔競技場周辺整備〕

④ プールは硬式野球場整備にあわせ廃止し、じゃぶじゃぶ池を整備する。

〔スケジュール〕

④ プールの大規模施設への複合化は、硬式野球場スタンド下及び競技場メインスタンド下は諸室を整備する必要があることから困難であるため、事業評価を実施したうえで、陸上競技場サイドスタンド・バックスタンド下への複合化の可能性について検討する。

等々力硬式野球場整備計画（平成25年3月）

■ 整備スケジュール

年度	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30以降 (2018以降)
硬式野球場	整備計画策定	基本設計	実施設計	解体 (プールなど周辺施設含む) 積算・発注準備	硬式野球場整備	供用	供用
陸上競技場	設計 契約	設計 解体	第1期整備 (メインスタンド) 大型映像装置設置	供用	★ 事業評価	設計	第2期整備 ※事業評価を実施した上で、整備方針を決めていきます。

5 施設配置図

● 等々力緑地施設配置図（「等々力緑地陸上競技場整備計画」より）

現況図（競技場周辺）



将来配置イメージ図（競技場周辺）



6 じゃぶじゃぶ池の整備イメージについて

- ・水深は最大20cm程度で、築山などと組み合わせることにより、水を流した滑り台など、遊具機能を合わせ持つ施設。
- ・対象年齢は幼児～小学生程度とし、無料で利用できる施設。
- ・水を流す期間はおおむね5ヶ月程度とし、それ以外の期間は遊具などとして利用できる施設。

等々力陸上競技場整備計画

1 背景

(1) 経過

等々力緑地については、平成20年10月に学識者やスポーツ関係者、地域の代表者等で構成する「等々力緑地再編整備検討委員会」を設置し、等々力緑地全体のあり方や施設の再編整備について検討を進め、次の計画等を取りまとめた。

- ・平成21年5月「等々力緑地再編整備基本方針」（整備に向けた基本的な考え方）
- ・平成22年2月「等々力緑地再編整備基本構想」（公園の基本的な考え方）[パブリックコメント実施]
- ・10月「等々力緑地再編整備基本計画」（再編整備の方向性）
- ・平成23年3月「等々力緑地再編整備実施計画（以下「実施計画」。）」

「実施計画」では、緑地全体の再整備の方向とともに陸上競技場や硬式野球場をはじめとした主要施設の整備の方向と配置、整備手順などを取りまとめている。

「実施計画」における整備の方向

〔陸上競技場整備〕

- ①現位置で整備を進め、競技場周囲における歩行者の通行・待機スペースを考慮する。
- ②施設規模は、3万5千人程度とする。
- ③工期を分割し、第1期整備としてメインスタンドを、第2期整備としてサイドスタンド・バックスタンドを整備する。
- ④整備期間中の施設閉鎖期間を可能な限り短縮する。

〔競技場周辺整備〕

- ①硬式野球場の施設規模は、1万人程度とし、現在プールのある南東方向へ移設する。
- ②プールはじゃぶじゃぶ池に変更するとともに大規模施設への複合化の可能性を検討する。
- ③駐車場は、現状程度の台数を確保する。

(2) 検討課題

陸上競技場整備を進める上での検討課題

- ①既存スタンドを整備した際の市債の償還が終了していないなかで、サイドスタンド・バックスタンド整備の進め方
- ②競技場整備期間中の陸上やサッカーの競技運営
- ③競技者や大会関係者等の十分な諸室の整備
- ④サイドスタンド・バックスタンドのコンコースの安全対策の実施
- ⑤プールの大規模施設への複合化の可能性
- ⑥来場者の増加を見据えた、安全で円滑な緑地内の歩行者動線の確保に向けて、自動車動線との交錯解消や正面広場周辺道路、中央園路、駐車場などの再編
- ⑦日本庭園も含めた釣池周辺の親水空間の整備

2 等々力陸上競技場整備計画

陸上競技場の整備に向けて、「実施計画」に沿って、検討課題を整理し、競技場周辺整備、陸上競技場整備、スケジュール等についてとりまとめた。

〔競技場周辺整備〕

- ①緑地内の歩車分離を行うため緑地を南北に縦断する公道の廃止に向けた調整を図り、陸上競技場と硬式野球場の間に、賑わいの場、たまりの場、防災機能を備えた広場を整備する。
- ②正面広場は、メインエントランスとして緑地の顔となる整備を行うとともに、臨時バス停車スペースを確保する。
- ③Jリーグの試合開催時等の安全で円滑な歩行者の移動確保に向けて、正面広場から競技場までの間にデッキを整備する。
- ④プールは硬式野球場整備にあわせ廃止し、じゃぶじゃぶ池を整備する。
- ⑤駐車場は、現状程度の台数を確保するため、歩車分離することにより、競技場スタンド下や競技場南側の広場等を駐車スペースとして活用する。

〔陸上競技場整備〕

- ①メインスタンドは解体し、建替える。
- ②メインスタンドの施設規模は1万人程度とする。（現状3400人）
- ③整備期間中も陸上の競技会やサッカーの試合を開催するため、安全性を十分考慮し、仮設のスタンドや更衣室等により、観客席、運営諸室・設備をできる限り確保する。
- ④屋根の架設等、施工者の有する技術を活用し、現場条件に適した設計を進めるため、設計・施工を一括して発注する。
- ⑤第2期（サイドスタンド・バックスタンド）整備は、複数の工期に分割することを前提に、事業評価を実施したうえで、整備方針を決定していく。

〔スケジュール〕

- ①陸上競技場第1期（メインスタンド）整備は、2012年のサッカーシーズン終了後に整備着手し、2015年シーズンの早期完成をめざす。
- ②陸上競技場第1期（メインスタンド）整備後、硬式野球場を整備する。
- ③陸上競技場第2期（サイドスタンド・バックスタンド）整備は、平成5年度から7年度に行った増築の際の市債の償還が終了していないので、事業評価を実施したうえで、整備方針を決定していく。
- ④プールの大規模施設への複合化は、硬式野球場スタンド下及び競技場メインスタンド下は諸室等を整備する必要があることから困難であるため、事業評価を実施したうえで、陸上競技場サイドスタンド・バックスタンド下への複合化の可能性について検討する。

3 今後の予定

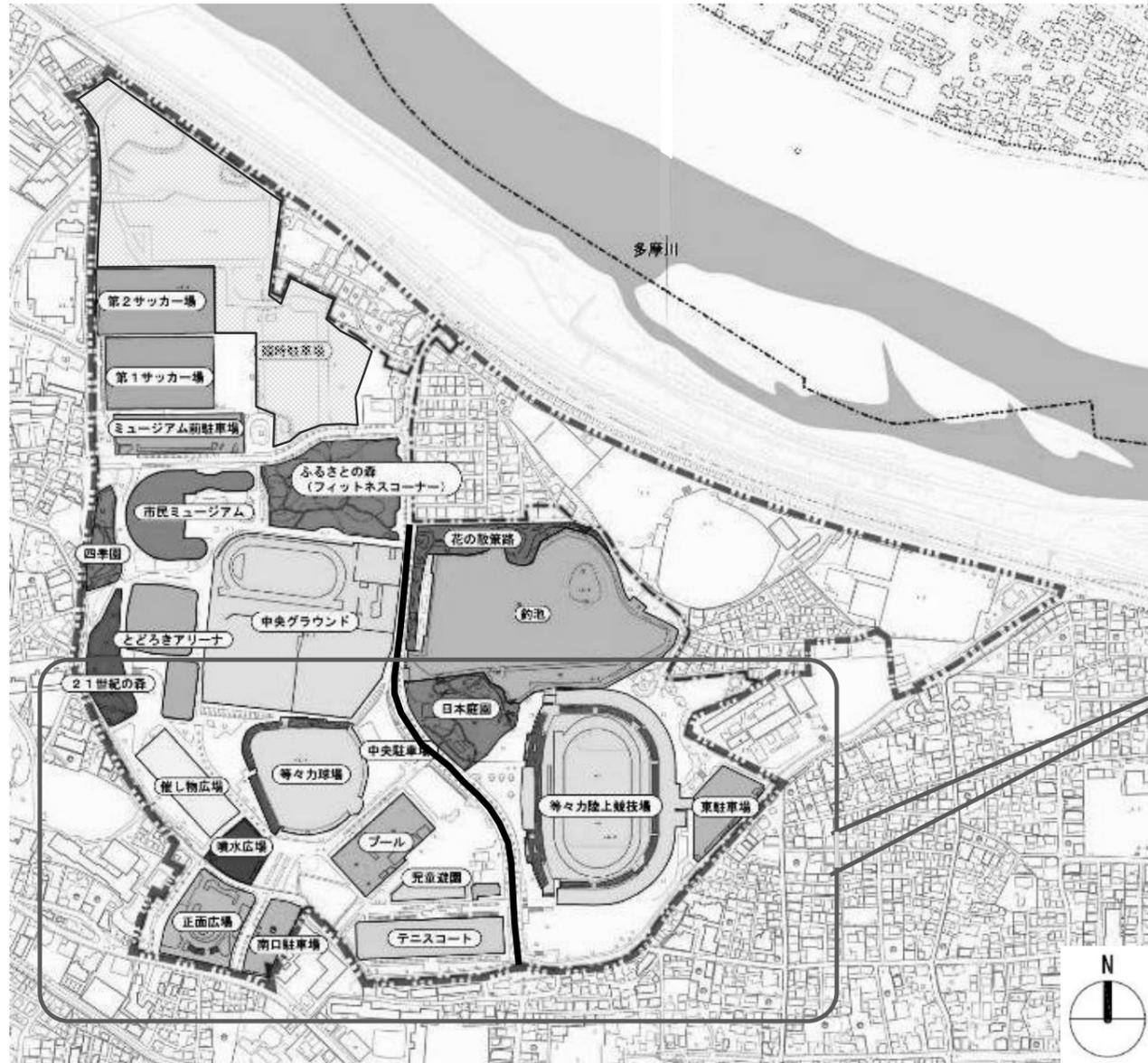
- 地域や施設利用団体等へ説明。
- 平成24年度当初予算に必要な予算を計上。

■等々力緑地施設配置図

○緑地を南北に縦断する公道（釣池の北側の花の散策路横からテニスコート横までの区間）を、緑地内の歩車分離を図るため、公道の廃止に向けた調整を進め、陸上競技場と硬式野球場の間に、賑わいの場、たまりの場、防災機能を備えた広場を整備する。

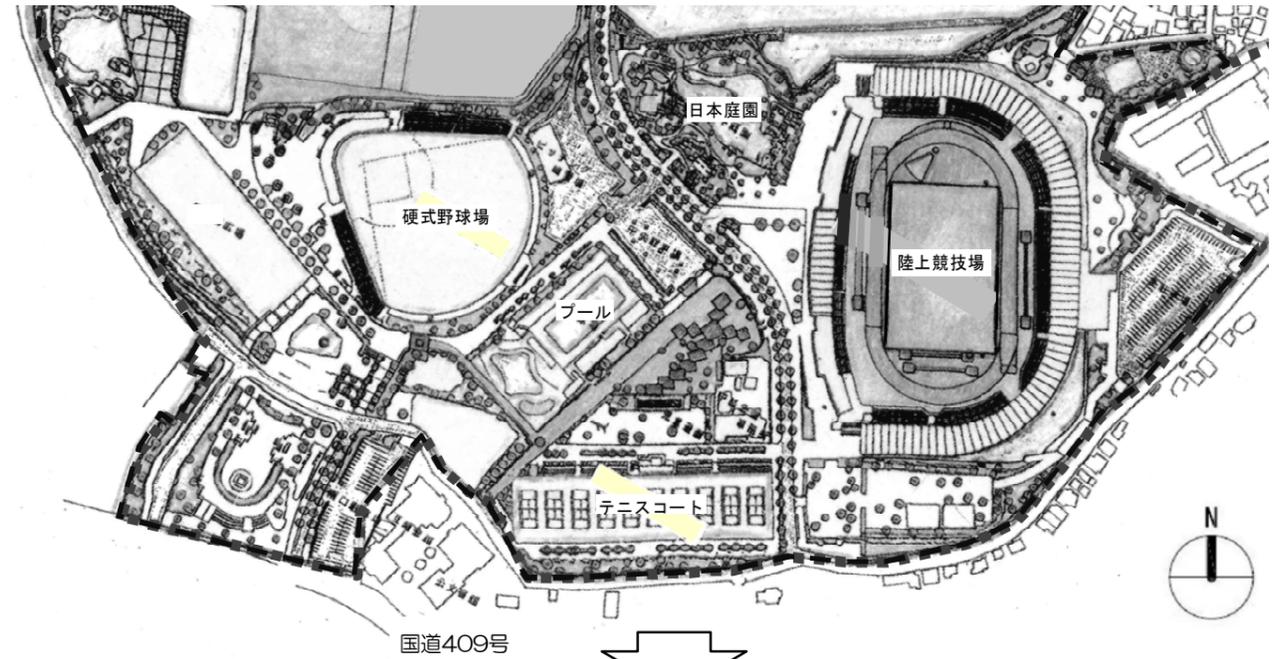
○プールは、硬式野球場整備にあわせ廃止し、催し物広場周辺にじゃぶじゃぶ池を整備する。

緑地全体現況図

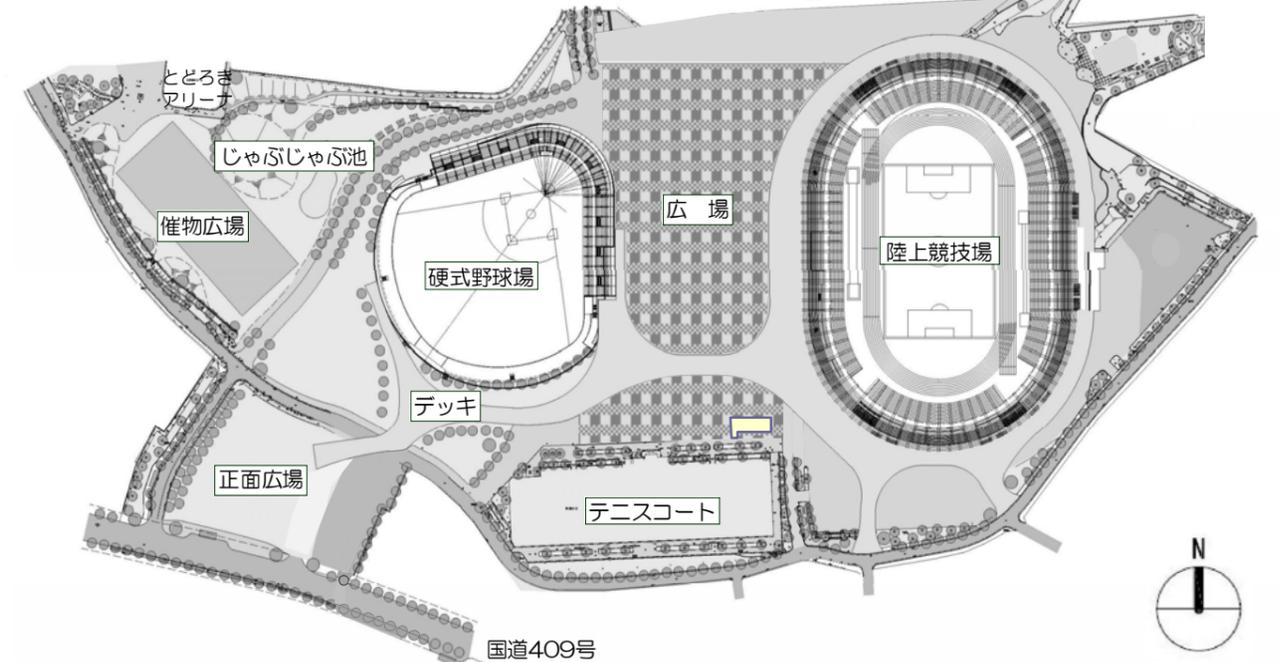


《凡例》
 ■■■■■ 都市計画区域(56.4ha)
 - - - 事業認可区域(42.9ha)

現況図（競技場周辺）



将来配置イメージ図（競技場周辺）



■ 競技場周辺の整備イメージ

○陸上競技場と硬式野球場の間の広場の間隔は、約100m確保する。

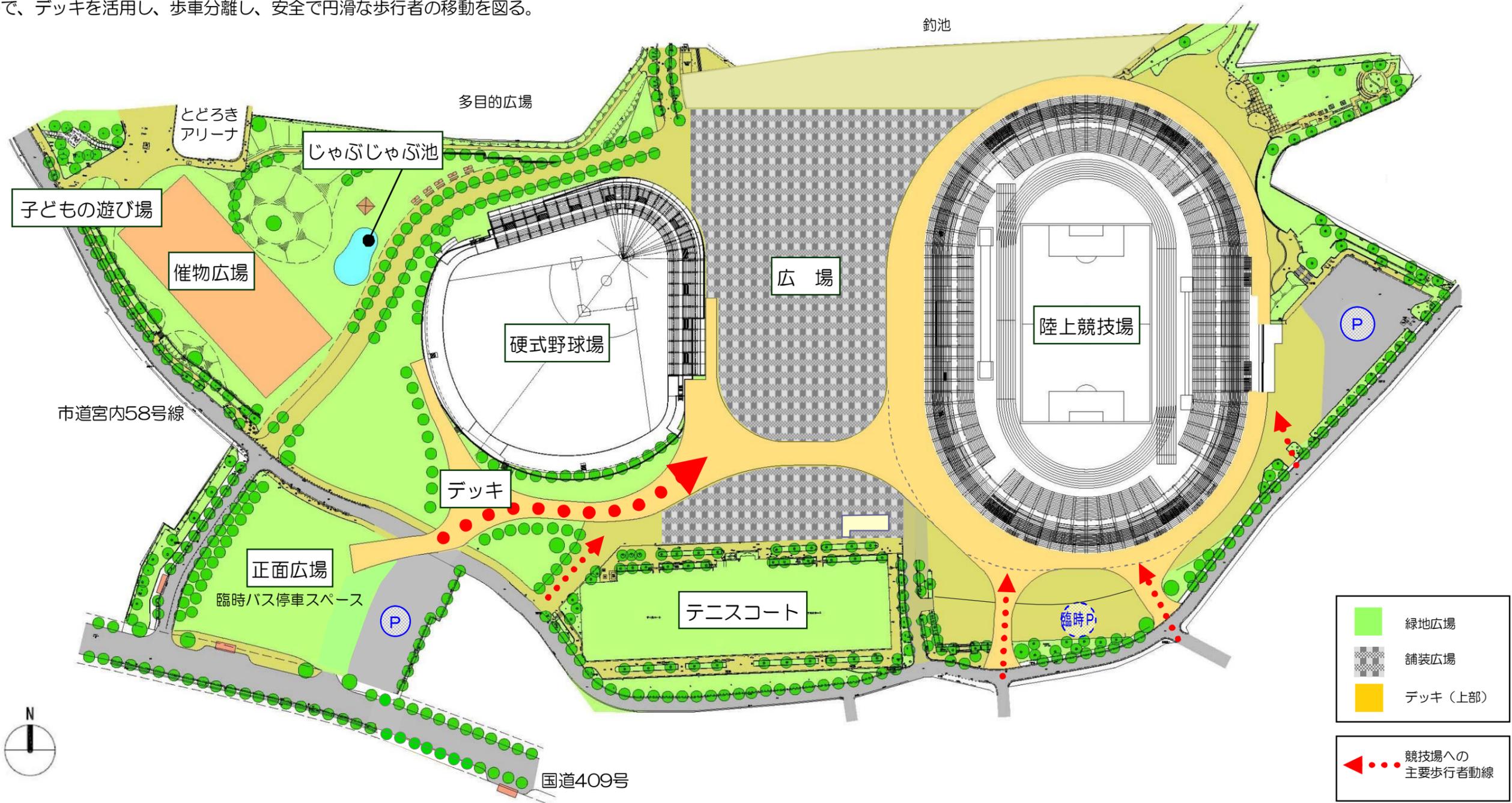
川崎フロンターレの試合開催時などには、飲食等の出店やイベントの開催に対応するとともに、区民まつりでの利用など、賑わいの場、たまりの場としての利用や、緊急時・災害時においても活用できる広場を整備する。

○正面広場は、国道409号に接し、彫刻や植栽などが整備されているが、緑地エントランスとしてのわかりにくさなどが課題となっているので、メインエントランスとして緑地の顔となる整備を行うとともに、臨時バス停車スペースを確保する。

○正面広場に臨時バスの停車スペースを確保したうえで、市道宮内58号線により緑地が分断されているので、デッキを活用し、歩車分離し、安全で円滑な歩行者の移動を図る。

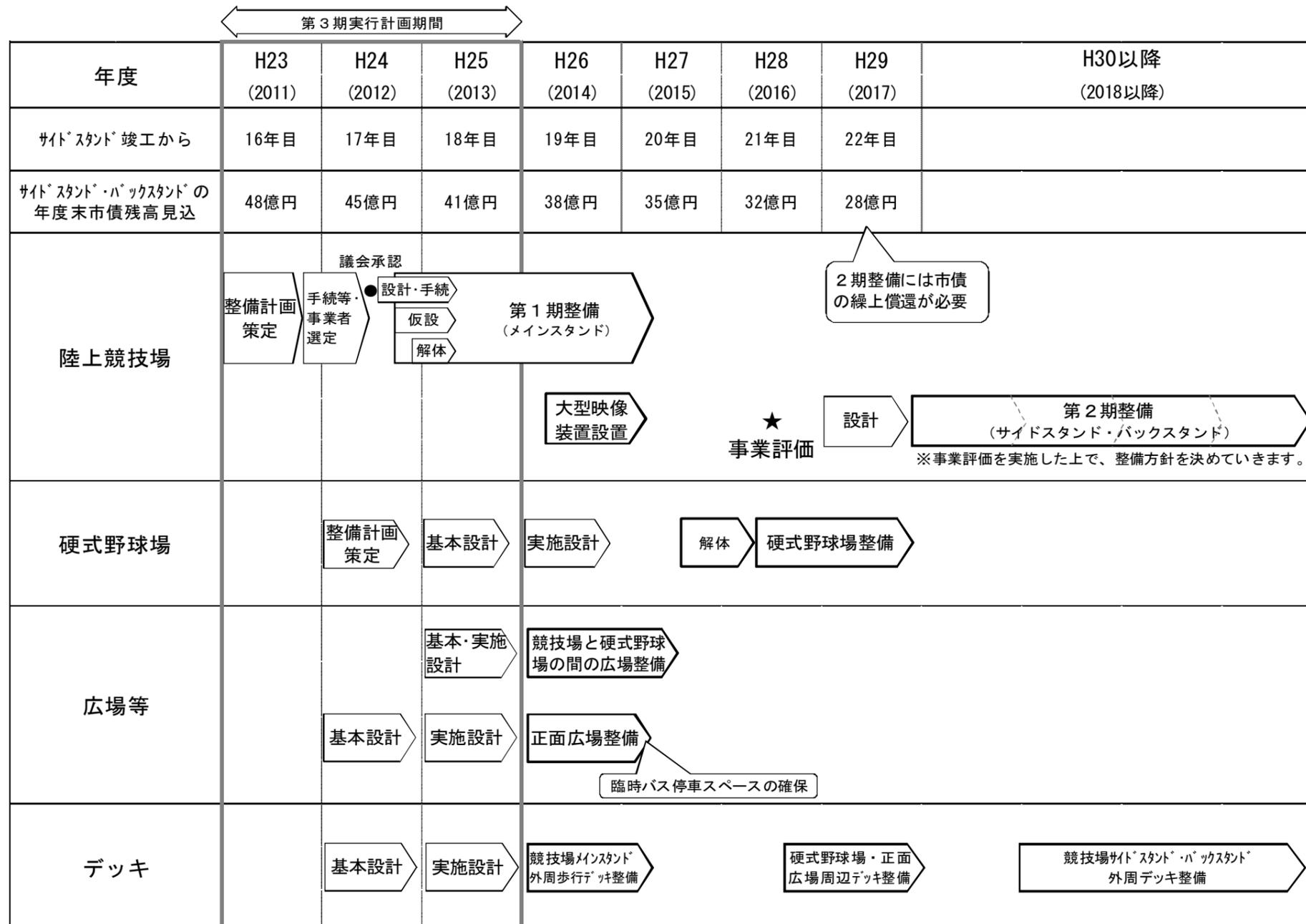
○デッキは、正面広場から、硬式野球場、陸上競技場2階の外周まで整備する。

○駐車場は、歩車分離により、陸上競技場2階の外周デッキ下の活用を図るとともに、Jリーグの試合開催時などには、競技場南側の広場等を臨時の駐車場として利用することにより、現状程度の駐車台数を確保する。



■整備スケジュールイメージ

- 陸上競技場の第1期（メインスタンド）整備は、2012年のサッカーシーズン終了後に仮設の設置をはじめとして整備着手し、2015年サッカーシーズンの早期完成をめざす。
- 陸上競技場第1期（メインスタンド）の整備後、硬式野球場を整備する。
- 硬式野球場の整備の後、陸上競技場の第2期（サイドスタンド・バックスタンド）整備を進める。
 サイドスタンド・バックスタンドは、平成5年度から7年度に行った増築の際の市債の償還が終了しておらず、今年度末の残高見込が約48億円となっている。第2期整備には、市債の繰上償還が必要となるので、硬式野球場の整備期間中に、事業評価を実施したうえで、整備方針を決定する。
- プールの大規模施設への複合化は、硬式野球場スタンド下及び競技場メインスタンド下は諸室等を整備する必要があることから困難であるため、事業評価を実施したうえで、陸上競技場サイドスタンド・バックスタンド下への複合化の可能性について検討する。

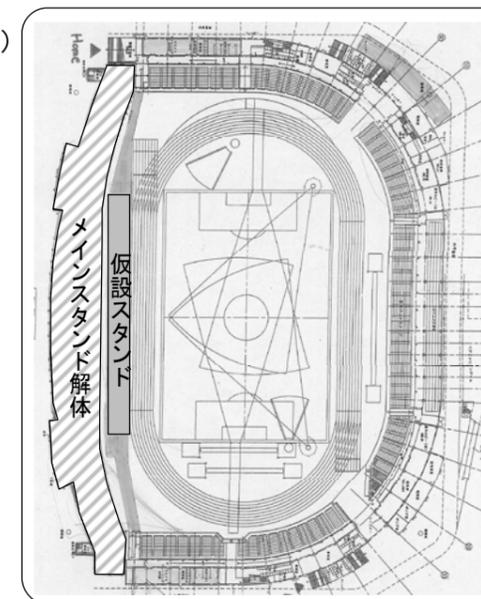


※整備スケジュールは、実行計画の策定や関連事業と調整を図っていきます。

■第1期整備（メインスタンド）の整備イメージ

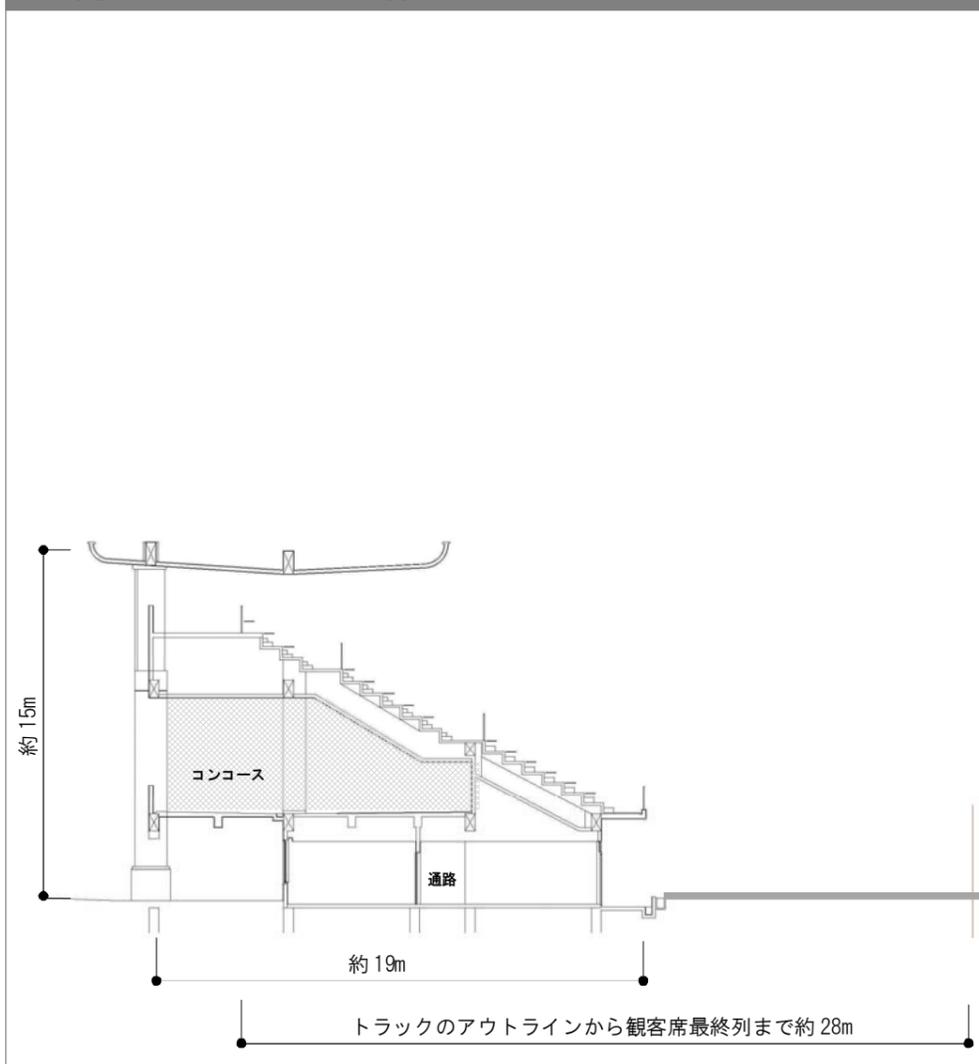
- メインスタンドは解体し、建替える。
- メインスタンドの施設規模は1万人程度とする。（現状3400人）
- メインスタンド整備期間中も陸上の競技会やサッカーの試合を開催するために、安全性に十分考慮し、陸上トラックの使用に影響のない、走り幅跳びのレーンと砂場がある位置に仮設のスタンドを設置し、スタンド周辺等に仮設の更衣室等を設置することなどにより、観客席、運営諸室・設備を確保する。
- 屋根の架設等、施工者の有する技術を活用し、現場条件に適した設計を進めるため、設計・施工を一括して発注する。

（第1期整備 「使いながら工事」イメージ）

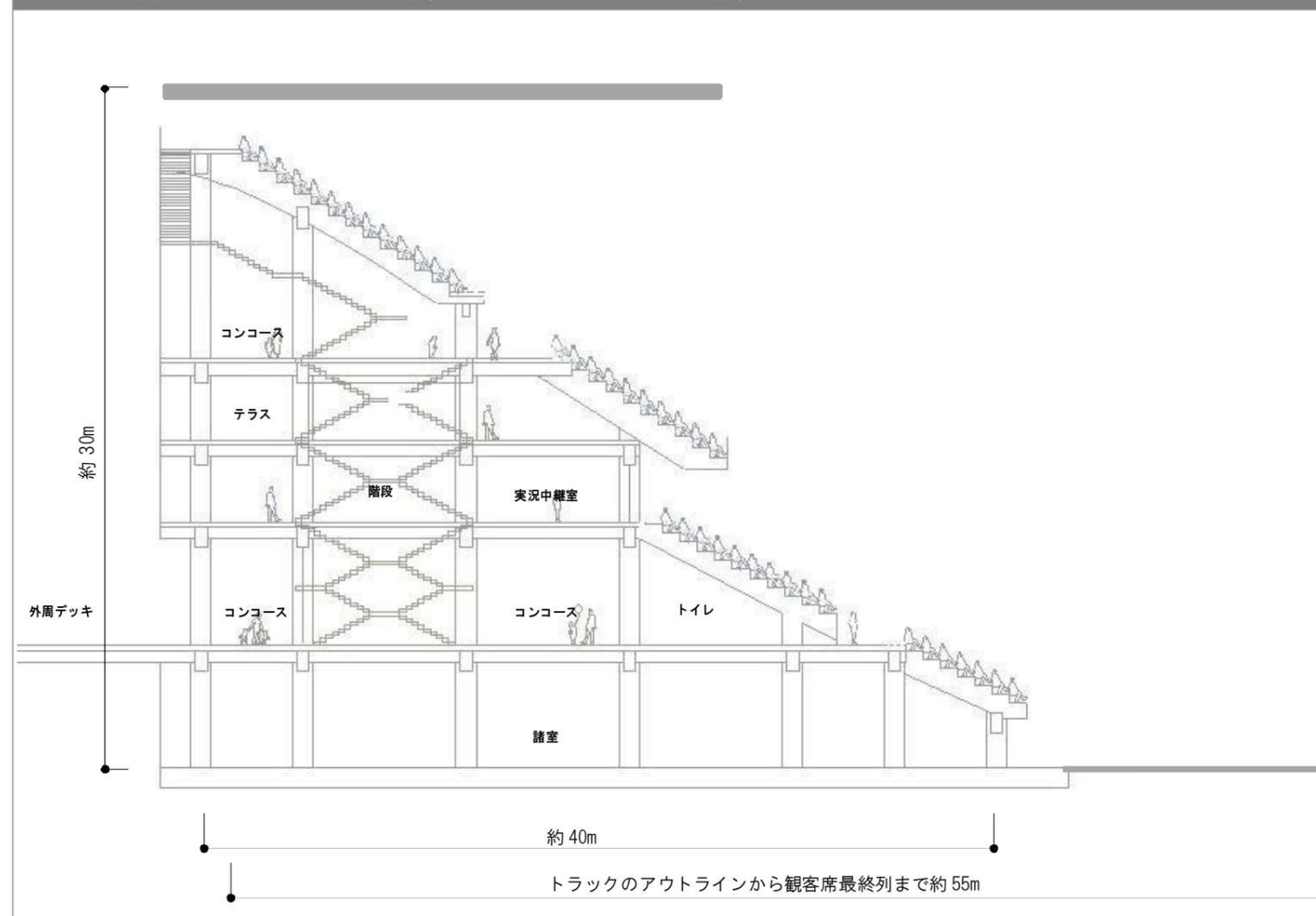


（断面図）

■現況（3400人、全体で2万5千人）



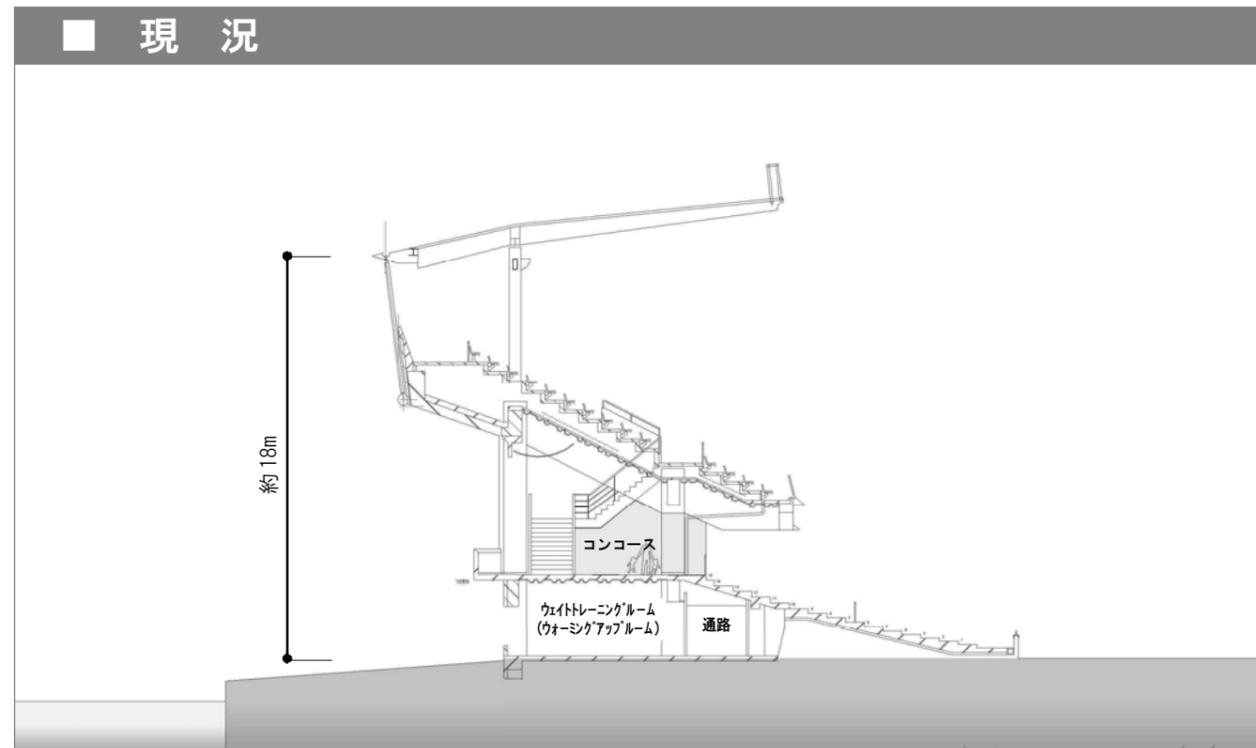
■建替後（1万人程度、全体で3万人程度）



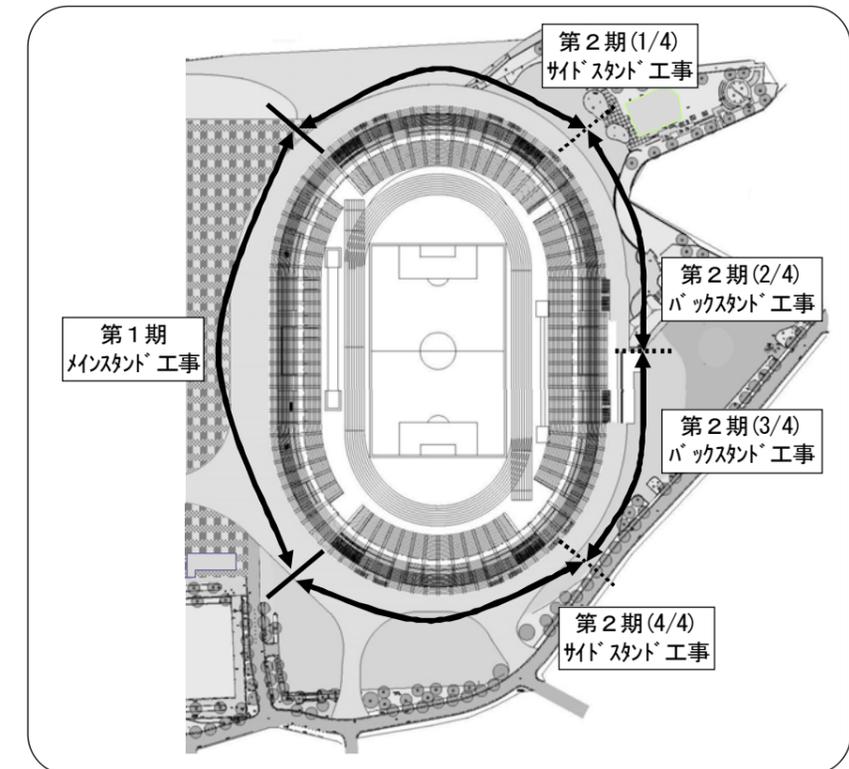
■第2期整備（サイドスタンド・バックスタンド）の整備イメージ

○第2期（サイドスタンド・バックスタンド）整備は、複数の工期に分割することを前提に、事業評価を実施したうえで、整備方針を決定していく。

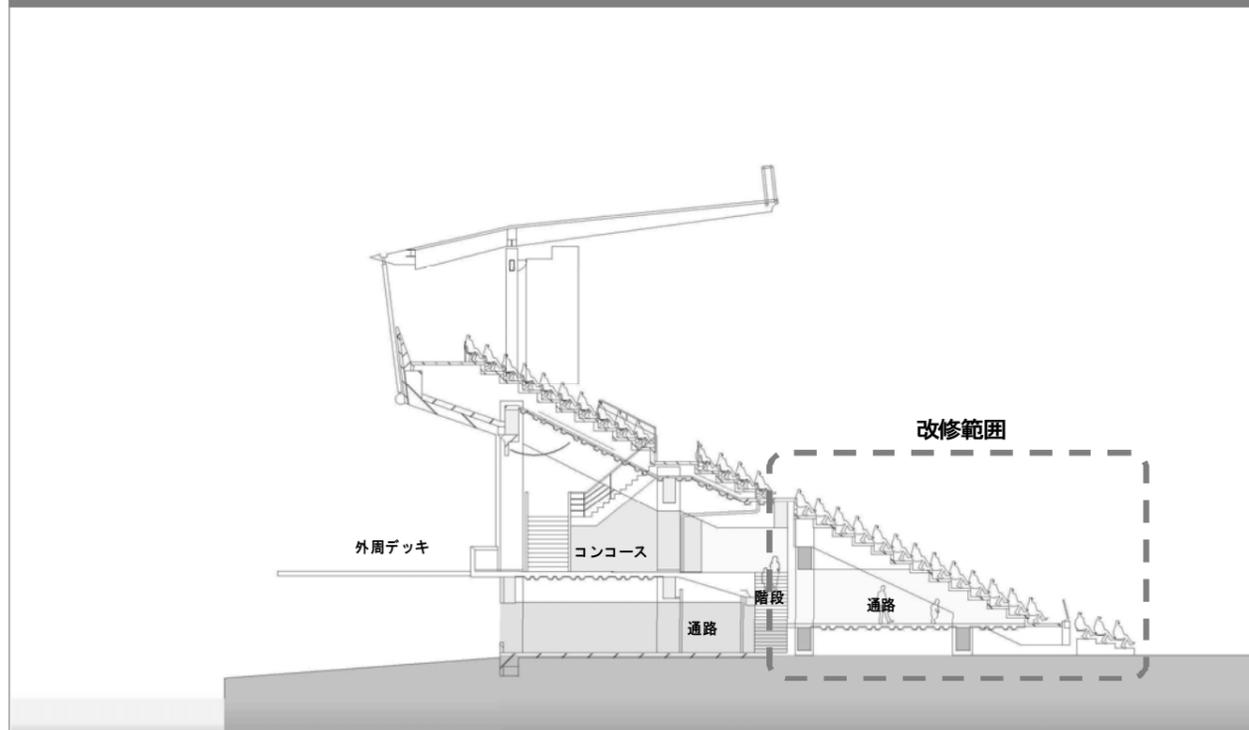
(断面図)



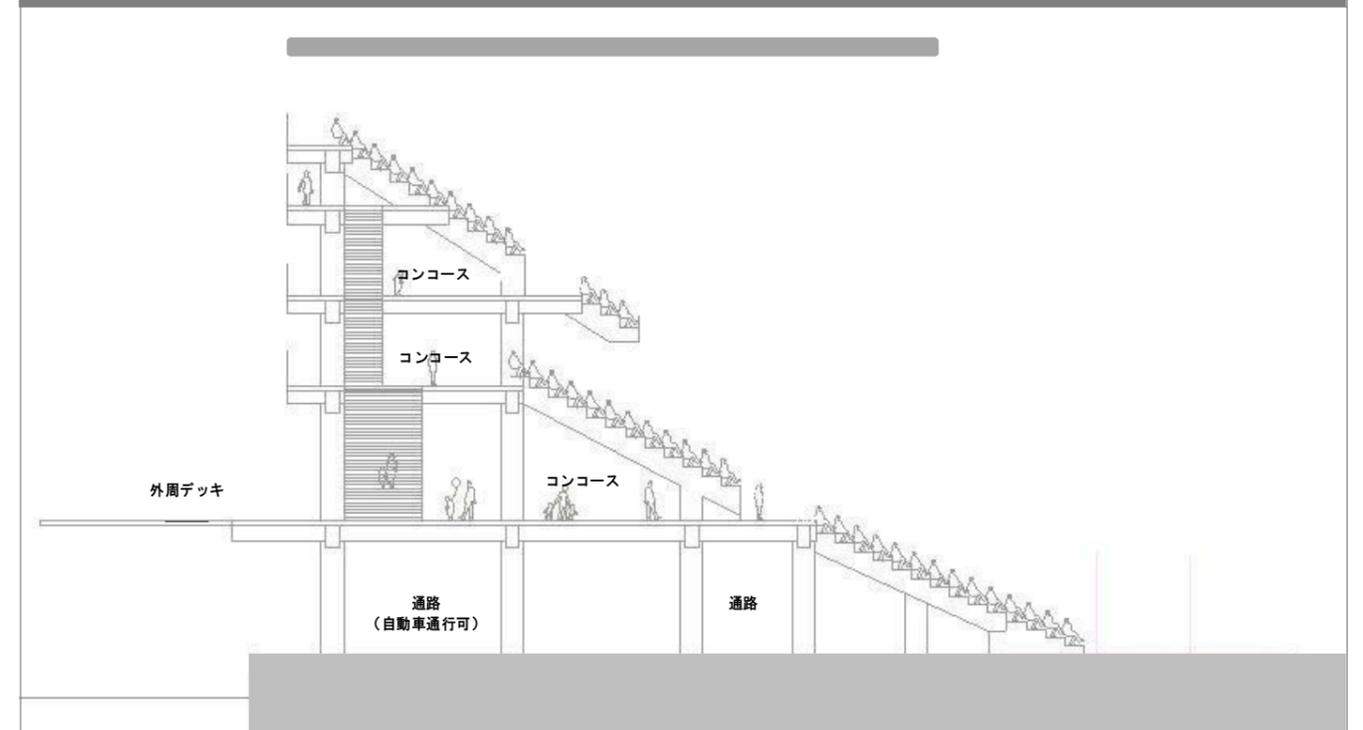
(第2期整備「工区分割」イメージ)



■ 改修案 (全体で3万人程度)



■ 建替案 (全体で3.5万人程度)



■第1期整備（メインスタンド）の諸室等配置イメージ

メインスタンドに必要な諸室等について、表に整理しました。

施設規模 1万人程度

(1階の諸室等)

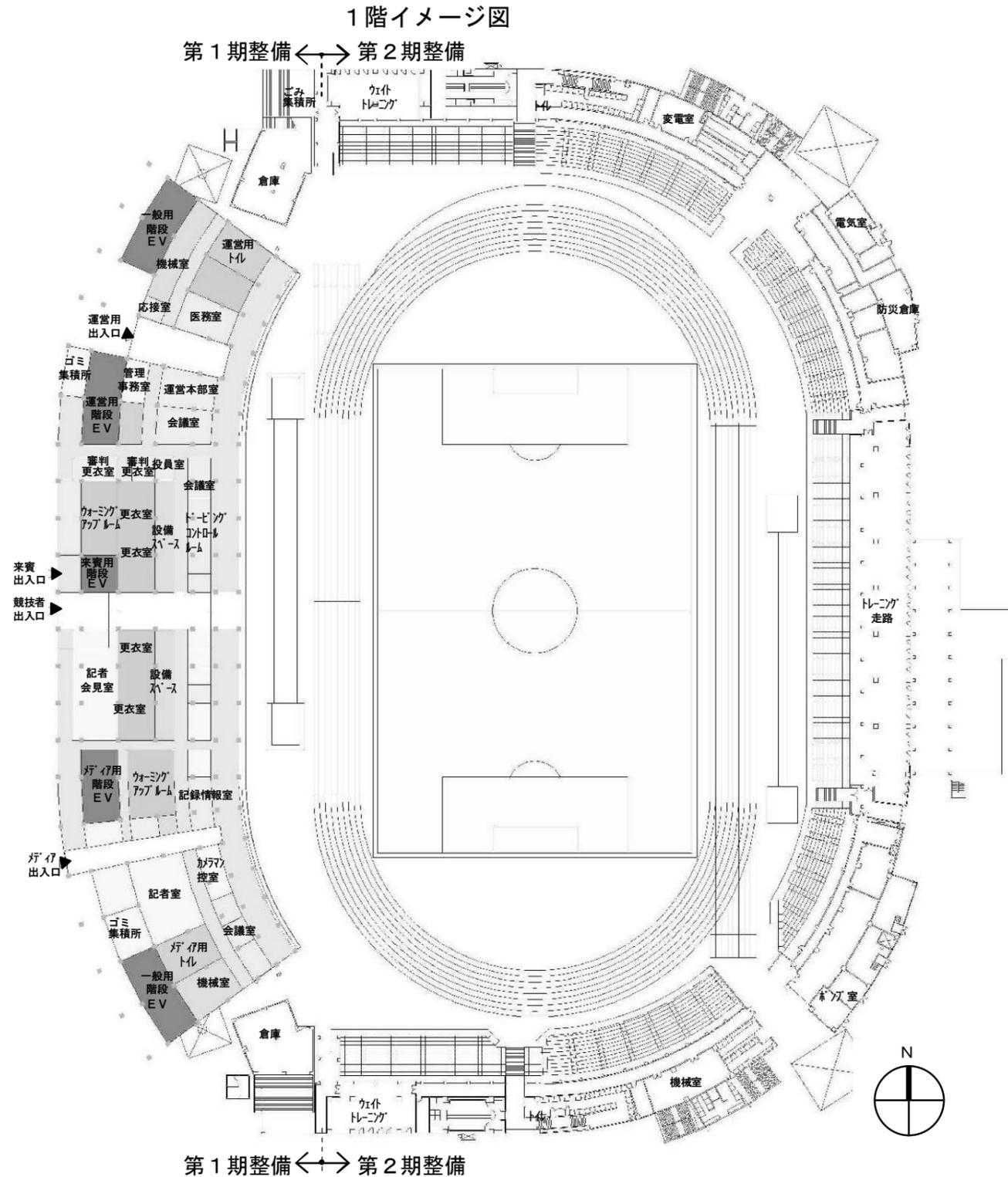
(2階の諸室等)

1階諸室等概要

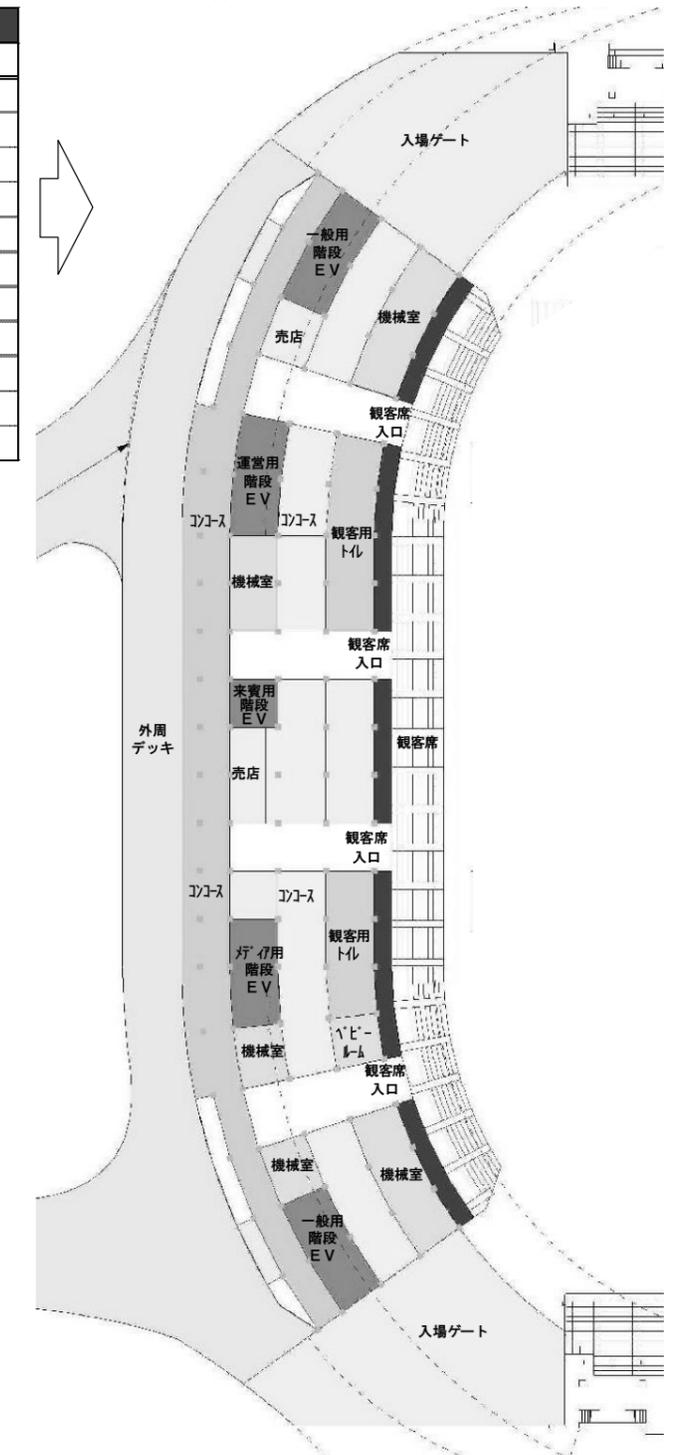
1階
更衣室
ウォーミングアップルーム
運営本部室
記者会見室
記者室
カメラマン控室
ドレッシングコントロールルーム
医務室
審判更衣室
記録情報室
一般用階段・EV
競技者出入口
メディア出入口
メディア用トイレ
メディア用階段・EV
来賓出入口
来賓用階段・EV
運営用出入口
運営用トイレ
運営用階段・EV
役員室
応接室
会議室
管理事務室
倉庫
ゴミ集積所
機械室
設備スペース

2階諸室等概要

2階
観客席
入場ゲート
売店
観客用トイレ
ベビールーム
コンコース
観客席入口
一般用階段・EV
メディア用階段・EV
来賓用階段・EV
運営用階段・EV
機械室



2階イメージ図 (2nd Floor Image Diagram)

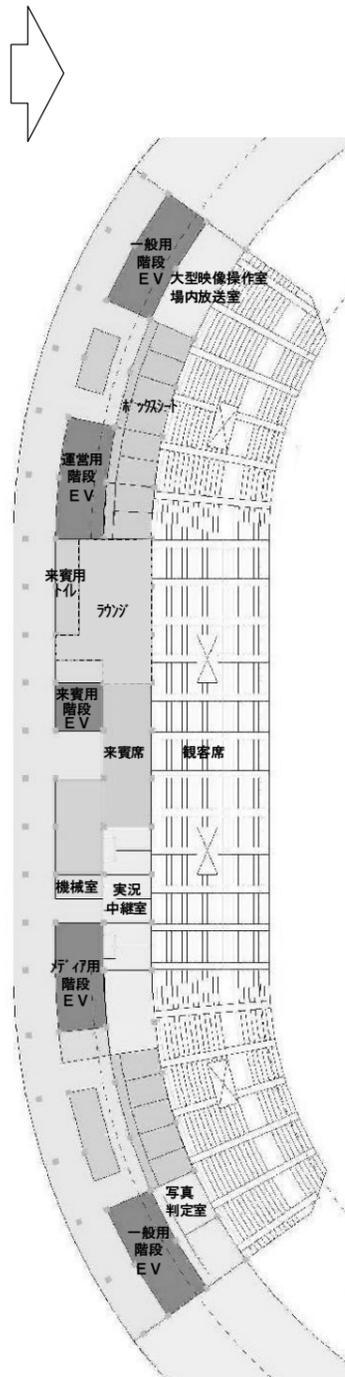


(3階の諸室等)

3階諸室等概要

3階
観客席
ボックスシート
実況中継室
来賓席
ラウンジ
大型映像操作室
場内放送室
写真判定室
一般用階段・EV
メディア用階段・EV
来賓用トイレ
来賓用階段・EV
運営用階段・EV

3階イメージ図

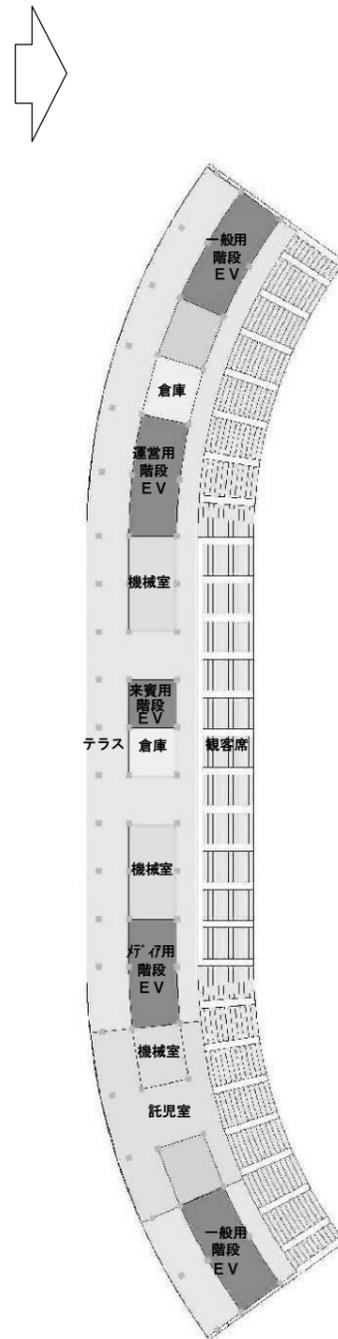


(4階の諸室等)

4階諸室等概要

4階
観客席
託児室
テラス
一般用階段・EV
メディア用階段・EV
来賓用階段・EV
運営用階段・EV
倉庫
機械室

4階イメージ図

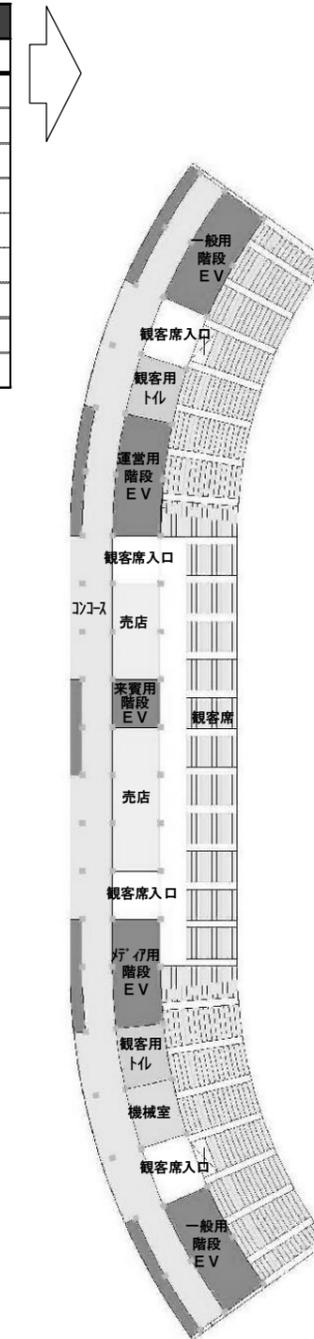


(5階の諸室等)

5階諸室等概要

5階
観客席
コンコース
売店
観客用トイレ
観客席入口
一般用階段・EV
メディア用階段・EV
来賓用階段・EV
運営用階段・EV
機械室

5階イメージ図

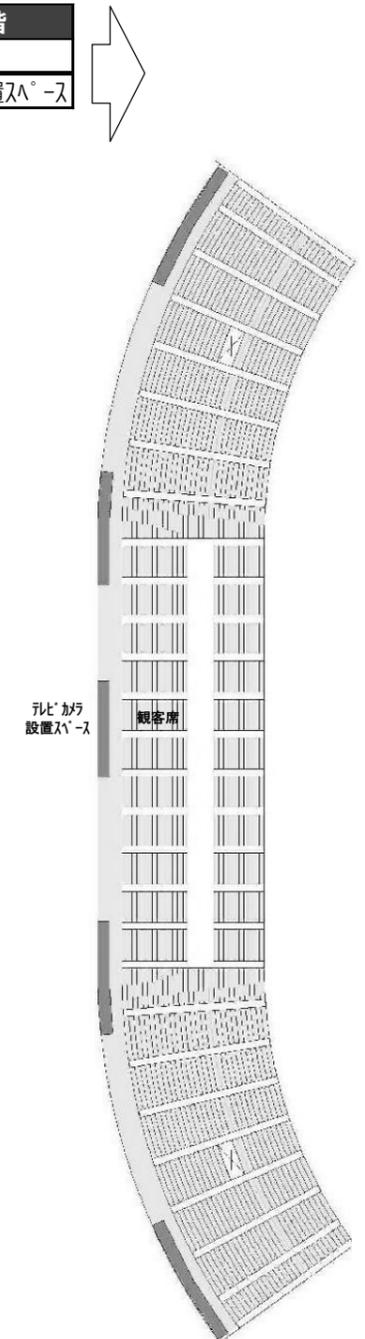


(6階の観客席)

6階観客席概要

6階
観客席
テレビカメラ設置スペース

6階イメージ図



1 等々力硬式野球場整備に関するこれまでの経過

等々力緑地については、平成20年10月に学識者やスポーツ関係者、地域の代表者等で構成する「等々力緑地再編整備検討委員会」を設置し、等々力緑地全体のあり方や施設の再編整備について検討を進め、次の計画をとりまとめた。

(1) 平成21年5月 等々力緑地再編整備基本方針（整備に向けた基本的な考え方）

整備に向けた基本的な考え方と、基本的な考え方を実現するための5つの方向性をとりまとめている。

(2) 平成22年2月 等々力緑地再編整備基本構想（公園の基本的な考え方）

公園全体としての施設機能の充実に向けた整備のあり方をとりまとめ、硬式野球場の整備については、施設の目標と整備の方向性をとりまとめている。

(3) 平成22年10月 等々力緑地再編整備基本計画（再編整備の方向性）

「基本方針」及び「基本構想」、検討委員会での検討経過を踏まえ、等々力緑地の再編整備の方向性をとりまとめ、硬式野球場など主要施設の整備の方向性についてとりまとめている。

(4) 平成23年3月 等々力緑地再編整備実施計画（以下「実施計画」という。）

「実施計画」では、緑地内の緑と水、安心・安全の場、動線の再整備、緑地へのアクセス改善など、緑地全体の再整備の方向とともに、陸上競技場や硬式野球場をはじめとした主要施設の整備の方向と配置、整備手順・スケジュールについてとりまとめている。

「実施計画」における野球場整備の方向

硬式野球場は、収容人員は現在 4,000 人で、高校硬式野球の選手層の拡大や技術の向上を目的に昭和42年に供用開始し、高校生による硬式野球の練習や大会、社会人野球の大会、首都大学リーグ、一般の方々の練習・試合などに利用されています。

施設の老朽化、収容人員の拡大、防球対策、施設の機能向上と諸室の整備などが指摘されていますので、次の方向で整備を進めます。

- ・高校野球や社会人野球の大会開催が可能な硬式野球場として、競技や観戦が円滑かつ安全に行えるよう、施設の機能向上、競技者や大会関係者等の諸室の整備、防球対策等を進めます。
- ・施設規模は、高校野球や社会人野球の大会開催が可能な施設を前提とし、収容人員1万人程度とします。
- ・施設位置は、正面広場から多摩川へ続く緑の軸線を整備するため、球場周囲の歩行者の通行や待機スペース確保なども考慮しながら、南東方向へ移動します。
- ・施設は、日照による守備への影響を考慮し、本塁側を北東の向きとします。
- ・施設の多目的利用、集約化・複合化・立体化などをめざします。
- ・備蓄倉庫やヘリポートの整備など災害時の機能導入を検討します。

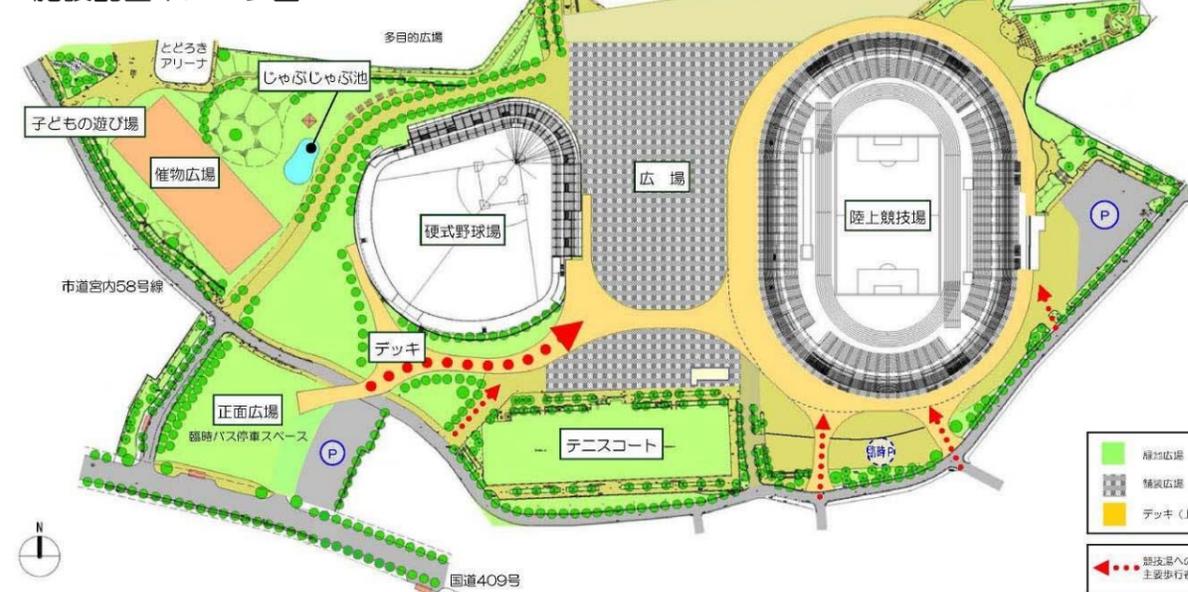
(5) 平成23年11月 等々力陸上競技場整備計画

陸上競技場の整備計画において、施設配置と整備イメージ、整備スケジュールについてとりまとめている。

〈現況図〉



〈施設配置イメージ図〉



2 等々力硬式野球場整備計画

これまでに策定した計画に基づき、野球場の規模や機能などについて、施設を利用する団体や関係者等と調整を図り、野球場整備へ向けた基本的な施設計画についてとりまとめた。

(1) 整備の基本方針

① 川崎市唯一の本格的な硬式野球場として、相応しい機能とグレードを有した施設とする。

② 施設位置は南東方向へ移動し、本塁側を北東の向きとする。

③ 「等々力緑地」の公園施設として市民に開かれた親しみやすい施設とする。

④ 多目的な市民利用ができる施設機能を導入する。

⑤ ユニバーサルデザインに配慮した施設とする。

⑥ 災害時の救援活動、復旧活動の拠点となりうる施設とする。

⑦ 安定的なエネルギー環境に配慮した施設とする。

⑧ 民間活力の導入による施設の管理及び運営を考慮した施設とする。

(2) 施設の基本機能

<フィールド>

- ① フィールド規模は、川崎市唯一の本格的な硬式野球場として、高いレベルの競技が行えるよう両翼100m、センター122m程度とする。(県内において最大級の広さ)
- ② フィールド(内外野・ファールグラウンド)は、利用頻度やメンテナンスを考慮し、現在と同様に人工芝とする。

<内野スタンド・諸室>

- ① 観客の収容人員は1万人程度とし、内野6,000人、外野4,000人程度を収容可能とする。
- ② 快適な試合観戦ができるよう、屋根をバックネット裏観客席の一部に設置する。
- ③ 観客席は、観戦環境向上のため個席とし、一部は応援を考慮しベンチシートとする。
- ④ 大会関係諸室(本部室、役員室、記録放送室等)はバックネット裏1階部分に設置する。
- ⑤ 利用者諸室(更衣室、シャワー、トイレ等)は、大会利用を考慮し1塁側、3塁側にそれぞれ設置する。
- ⑥ 各種大会利用を考慮し、屋内ブルペン^①を1塁側、3塁側にそれぞれ設置する。
- ⑦ 現在の室内練習場の機能を確保するため、打撃練習も可能な屋内練習場を設置する。
- ⑧ 災害時における緊急物資の一時保管場所として、屋内練習場を使用可能とする。

<外野スタンド>

- ① 広く市民利用を図るため、外野スタンド部分は、芝生席とし、通常時は公園利用者が公園の一部として利用できるようにする。
- ② 野球場に隣接して設置を計画しているデッキについては、公園としての景観に配慮するため、外野スタンドと一体的に整備する。
- ③ 民間活力の導入による施設の管理及び運営を考慮し、デッキ下の一部には、インフォメーションセンターやカフェなどの設置を検討する。
- ④ 硬式野球場の前には、まとまりのある広場を整備することから、老朽化が進んだ「等々力いこいの家」について外野スタンド公園側への複合化を図る。

<設備>

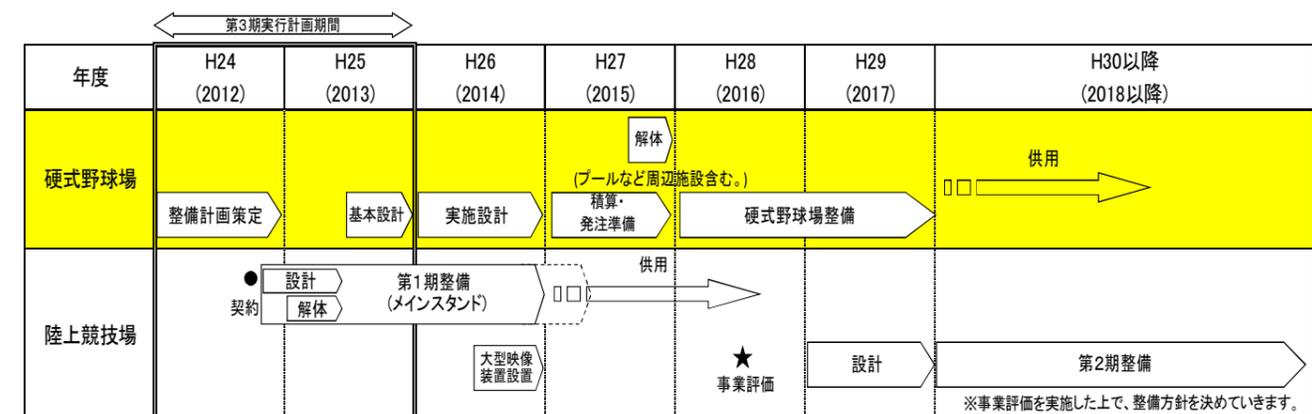
- ① ナイター照明については、硬式野球の公式競技に必要な照度を確保する。
- ② コンコースには、各種大会の開催に対応するため、売店スペースやトイレ、応援者の着替えスペースを設置する。
- ③ 防球ネットは、打球曲線を考慮して設置し、公園利用者の安全を確保する。
- ④ 安定的なエネルギー環境に配慮するため、エネルギーコスト削減に向けた設備を導入する。

<その他>

- ① 競技者の乗降や荷物の積み下ろしに配慮し、大型バスが寄り付けるロータリー等を設ける。
- ② 多目的な市民利用ができるよう、一般貸し出し用の会議室や多目的スペースを設置する。
- ③ 誰もが利用しやすい施設となるよう、多機能トイレの設置やサイン計画など、ユニバーサルデザインに配慮した施設とする。
- ④ 災害復旧活動に必要な資機材等の保管スペースとして備蓄倉庫を設置する。
- ⑤ フィールド及び諸室を、災害時の復旧活動等の活動拠点として使用可能とする。
- ⑥ 隣接する広場との一体的利用など、周辺施設と連携を図る施設等を導入する。

(3) 整備スケジュール

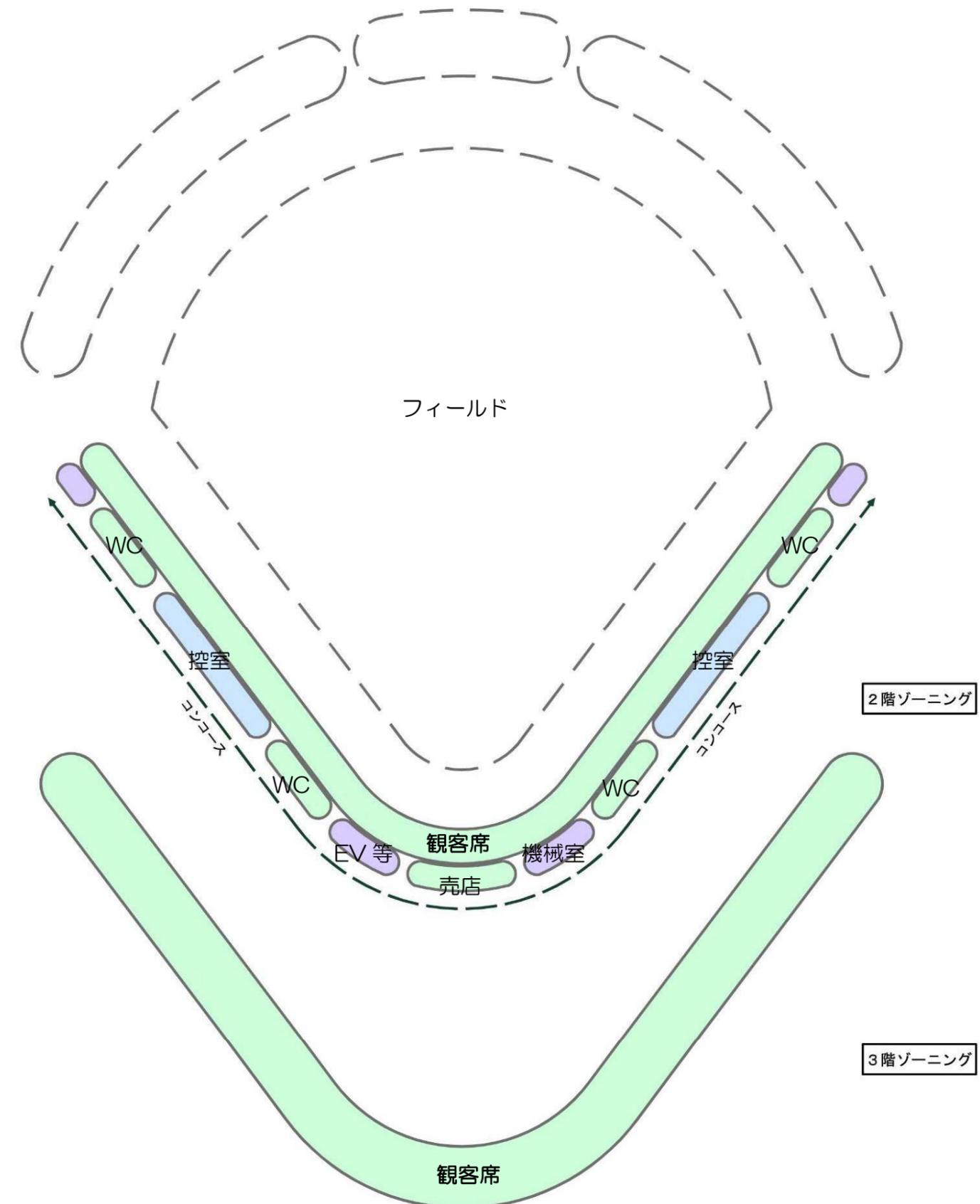
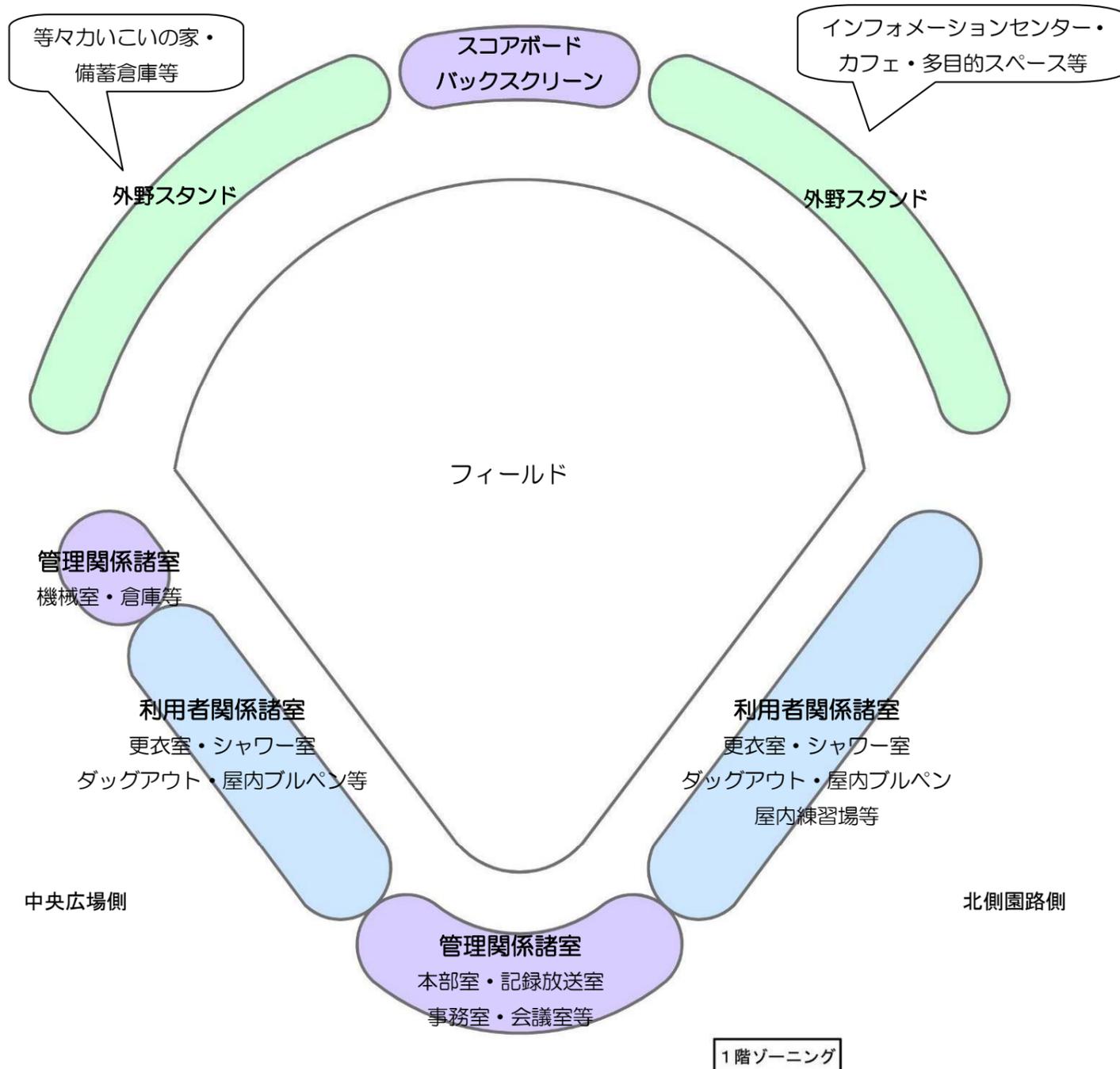
- ・既存野球場(プールなど周辺施設含む)は、平成27年のシーズンオフより解体に着手する。
- ・改築整備は2カ年で行い、平成30年4月の供用開始をめざす。



◆スケジュールは、次期実行計画と調整を図っていきます。

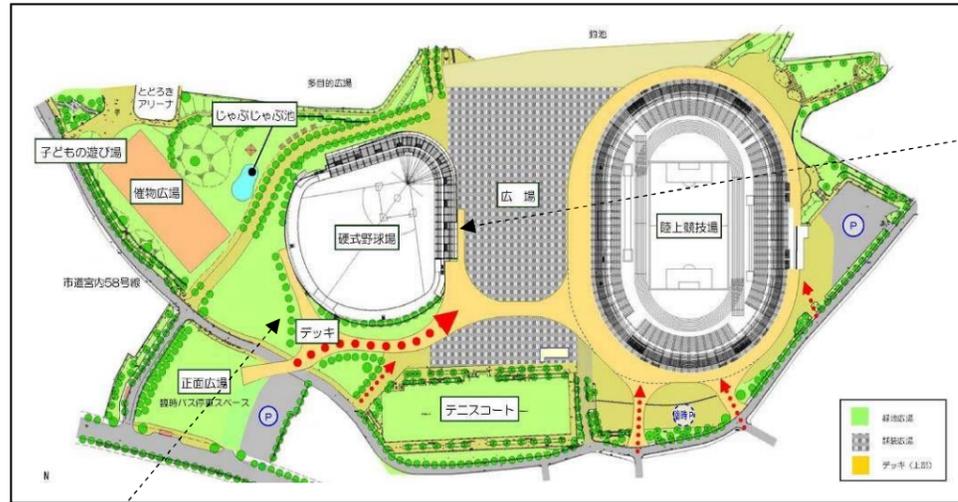
3 硬式野球場整備の平面計画イメージ

		既存施設概要		計画施設概要	
フィールド		面積：11,546㎡（人工芝） センター：120m 両翼：93m		面積：約13,500㎡（人工芝） センター：122m 両翼：100m	
スタンド	コンクリート造 スタンド	2,038㎡		約9,000㎡	
	土塁スタンド	492㎡		約2,300㎡	
観客収容 人数	内野スタンド	3,000人	4,000人	約6,000人	10,000人
	外野スタンド	1,000人		約4,000人	
夜間照明		内野：400ルツ 外野：200ルツ		内野：1,500ルツ 外野：800ルツ	
屋内練習場		球場外		スタンド内	



3階ゾーニング

4 硬式野球場整備イメージ



<中央広場側から見た整備イメージ>

※本図は、計画に基づく参考イメージです。
今後の設計において詳細な検討を進めます。



<正面広場側から見た整備イメージ>

【問い合わせ先】
川崎市建設緑政局等々力緑地再編整備室
TEL 044-200-2408
FAX 044-200-3979
E-mail 53todose@city.kawasaki.jp

等々カプール利用者アンケート調査結果

1、調査概要

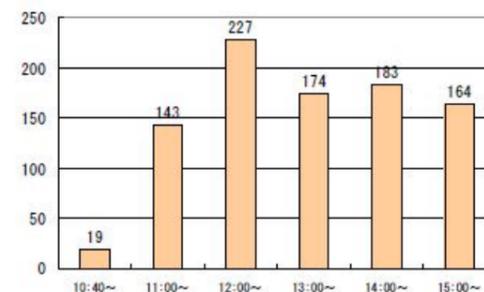
- 平成 23 年 8 月 28 日（日）10:40～16:00 実施 天気 晴れ
- アンケート数 410 無効 1 有効回答数 409 （有効人数 910 名）
- 帰宅者を対象に出口にて調査
- 家族連れは、代表者 1 名が回答、それ以外のものは個別に回答。

2、調査結果の考察

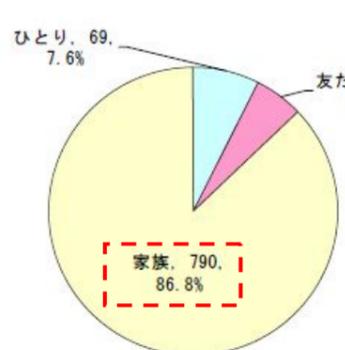
- 幼児～小学生までの家族連れが大半であり、水遊びを目的に来ている。
- 等々カ緑地近隣区の在住者の利用が多く、徒歩・自転車等を利用して来ている。
- 児童用と浅いプールの利用割合が最も多い。

- 年齢構成では、中学生以下の子ども：463 人、一般者（15 歳以上）：447 人である。
- 年齢階層で見ると、幼児から小学生低学年（3 年生以下）は家族連れで訪れ、小学生高学年～中学生は、友達同士が多くなる。
- 居住地は、等々カ緑地のある中原区（約 60%）が最も多く、次いで隣接している高津区（約 20%）、宮前区（10%弱）の順になる。
- 利用交通手段は、自転車（約 60%）、自家用車（約 20%）が大半を占め、公共交通機関の利用者は少ない。
- 利用時間は、1 時間以上 3 時間未満の時間帯が多い。
- 一人で来場している人は、全体の 10%弱であり、その傾向として、一般者、6 回以上の利用、50m プール（深い）利用の方が多く、利用目的には、泳ぐと健康増進が選ばれている。
- 家族連れは、全体の 90%弱を占め、その構成は幼児～小学校低学年までが多く、水遊び目的、幼児用と児童用・50m（浅い）プールの利用が多い。
- 友達同士で来場する人の多くは、小学生高学年～中学生であり、その傾向は、水遊び目的、50m（浅い）プールの利用者が多い。
- 以上、属性によって利用傾向が異なるが、家族連れが全体の約 90%弱を占めていることから、プールは、地域の水遊び施設としてのイメージが強いと考えられる。
- 一方で、健康増進等を目的とされている方もいることから、それら機能の維持に努める必要があると考えられる。

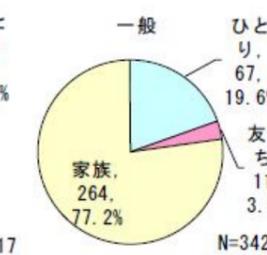
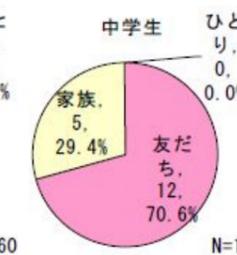
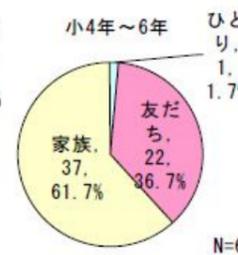
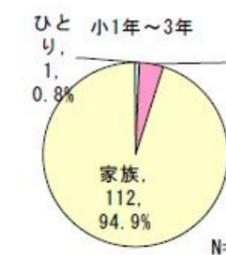
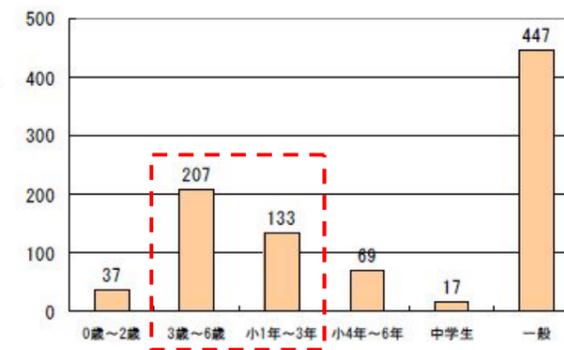
0) 時間帯別アンケート回収数



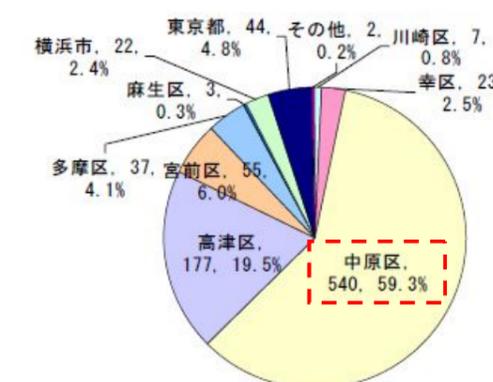
1) 今日は、どなたといらっしゃいましたか。



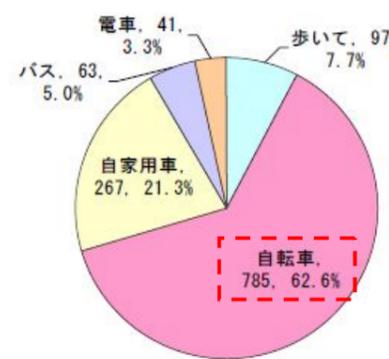
2) 年齢についておたずねいたします。



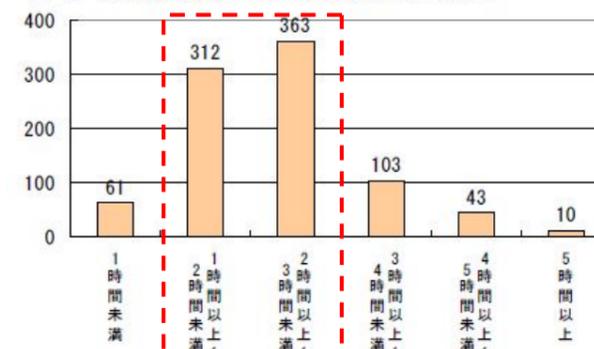
3) どちらからお見えになりましたか。



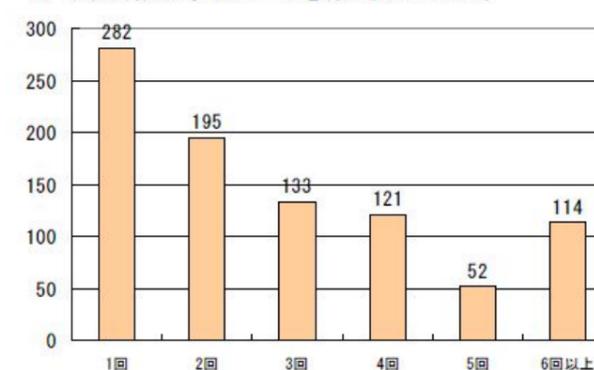
4) どうやってプールまでお見えになりましたか。(複数回答あり)



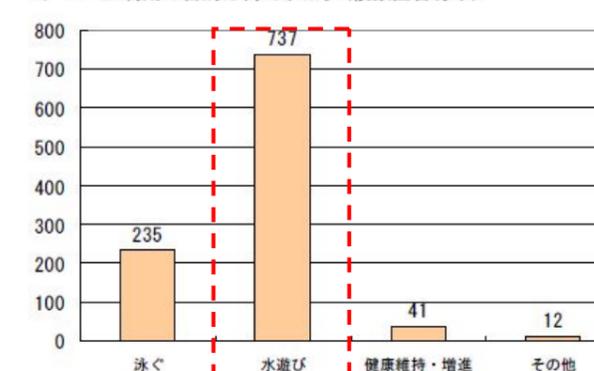
5) プールの利用時間についておたずねいたします。



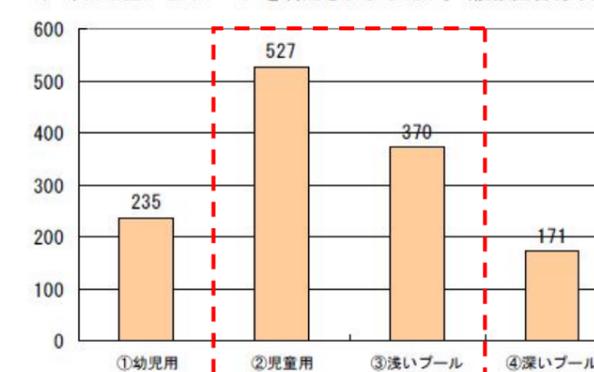
6) 今年は何回、等々カプールを利用されましたか。



7) プール利用の目的は何ですか。(複数回答あり)



8) 今日は主にどのプールを利用されましたか。(複数回答あり)



5) プールの利用時間についておたずねいたします。

- 1 時間未満
- 1 時間以上～2 時間未満
- 2 時間以上～3 時間未満
- 3 時間以上～4 時間未満
- 4 時間以上～5 時間未満
- 5 時間以上

6) 今年は何回、等々カプールを利用されましたか。
(今日の利用を含む)

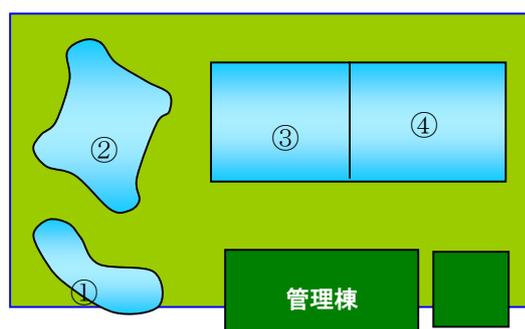
- 1 回
- 2 回
- 3 回
- 4 回
- 5 回
- 6 回以上

7) プール利用の目的は何ですか。

- 泳ぐ (運動として)
- 水遊び (レジャーとして)
- 健康維持・増進 (水中ウォーキングなど)
- その他 ()

8) 今日は主にどのプールを利用されましたか。

- ① 幼児用
- ② 児童用
- ③ 50mプール (浅いプール)
- ④ 50mプール (深いプール)



<略 図>

<ご協力ありがとうございました>